

国際交流研究科 第3回公開講演会

食のグローバル化と国際協力

～フェアトレードを考える～

パルシステム生活協同組合連合会

広報本部長 高橋 宏通 氏

特定非営利活動法人 A P L A

事務局長 吉澤 真満子 氏



日時：平成 **29** 年 **7** 月 **15** 日 (土)

時間：15：00～16：40 (開場 14：30)

会場：目白大学新宿キャンパス

10号館9階 10901教室

※参加無料／申込不要

主催 目白大学大学院国際交流研究科

共催 目白大学社会学部地域社会学科

協力 パルシステム生活協同組合連合会



講演趣旨

コーヒー、紅茶、バナナ、チョコレートなど、たくさんの食品が世界の国々から、しかもその多くは途上国から、そしてときには驚くほど安い価格で、私たちの食卓に届けられています。ところでみなさんは、こうした食品を生産している人々が強いられる過酷な労働条件や生活環境のことを考えてみたことはありますか。フェアトレードとは「公平な貿易」、つまり途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することにより、経済的にも社会的にも弱い立場にある途上国の生産者や労働者の生活改善と自立をめざす貿易の仕組みと言われます。そこで今回は、そうしたフェアトレードの実践に関わっているパルシステム連合会の高橋宏通広報本部長と特定非営利活動法人 APLA の吉澤真満子事務局長にご講演いただき、また、本学大学院国際交流研究科の廣重剛史専任講師も加わってのパネルディスカッションを通して、みなさんとともにフェアトレードの視点から、食のグローバル化と国際協力について考えてみたいと思います。

パルシステムでは、「産直」を第一に、安全・安心な食べ物を調達し、「作る人」と「食べる人」がともに健康で安心な暮らしを実現するため、利益もリスクも分かちあえる関係を築くことを大切にしてきました。また、国内農畜産物の自給率を高めることを大事な目的としていますが、必要な量すべてを国産品だけでまかなうことは現状では到底できませんから、海外からの農畜産物や加工品についても、パルシステムが携わることを通じて、より安全で安心できる商品であることをめざしています。

一方 APLA (Alternative People's Linkage in Asia) では、関連の株式会社オルター・トレード・ジャパン (ATJ) と共に、30 年前から民衆交易を実践し、バナナやコーヒーなどの食べものを通じて、アジアの「作る人」と私たち「食べる人」がモノを通じて支え合う関係を創ってきました。いわば「国際産直」の取り組みです。継続的にバナナを食べることで、作る人たちの暮らしを支えると同時に、私たちは顔の見えるモノが食べられます。また、その作り手たちが持続可能な暮らしができるように、作物の多様化や農を軸にした地域づくりを進めるためのサポートをしています。

講師プロフィール



高橋 宏通 (たかはし ひろみち)

パルシステム生活協同組合連合会 広報本部長

1960 年東京都生まれ。1982 年、茨城労働生活協同組合に入協。1990 年、首都圏コープ事業連合 (現パルシステム) に移籍。1995 年、ジーピーエス (パルシステムの農産物・米部門の仕入れ、企画・販売・物流などを担う子会社) に移籍。2008 年より、同社常務取締役。2011 年、パルシステム連合会に移籍、食料農業政策室長、産直推進部長、事業広報部長を歴任し、2015 年より現職。



吉澤 真満子 (よしざわ まみこ)

特定非営利活動法人 APLA 事務局長

2000 年より (株) オルター・トレード・ジャパン勤務。バランゴンバナナの国内営業、品質管理、輸入・受発注などを担当。その後広報室などを担当したのち、2007 年より日本ネグロス・キャンペーン委員会 (JCNC) 事務局、2008 年より APLA 立ち上げと同時に事務局長に就任。



交通機関

●西武新宿線・都営大江戸線

「中井」駅より徒歩 8 分

●東京メトロ東西線

「落合」駅より徒歩 12 分

●都営大江戸線

「落合南長崎」駅より徒歩 10 分

★お車でのご来校はお控えください。

お問い合わせ先

目白大学大学院国際交流研究科

目白大学社会学部地域社会学科

TEL 03-5996-3158

URL <http://www.mejiro.ac.jp>